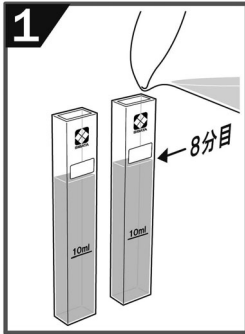


残留塩素測定器 DPD法

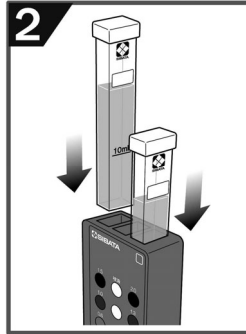
●本製品について●

本測定器は、残留塩素を含む水に N, N-ジエチルパラフェニレンジアミン (DPD) 試薬を加えることにより、残留塩素濃度に応じて、検水が淡赤紫色～赤紫色に変化する反応に基づく方法を採用しています。

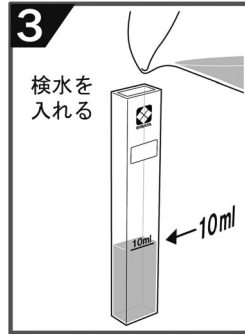
■測定方法



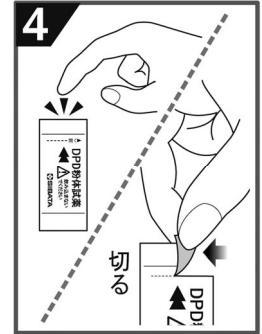
2本の角形試験管に検水を約8分目まで入れます。



キャップを取り付け、本体の両端のスリットに入れます。



1本の角形試験管に検水を10 mL 入れます。

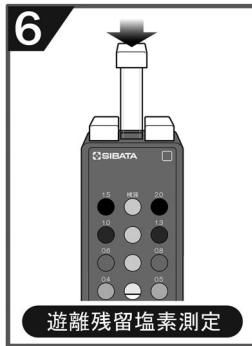


DPD 粉体試薬の袋を開封します。



DPD 粉体試薬を1袋、3の角形試験管に加え、キャップを取り付けて良く混和してください。

ご注意: 試薬の一部が残っていても測定には影響ありません。



5で発色させた角形試験管を約5秒後に本体の中央のスリットに入れます。直射日光の当たらない明るい場所で、角形試験管を上下にスライドして比色板と比較し、近い色の数値を読み取ります。この値が遊離残留塩素濃度となります。

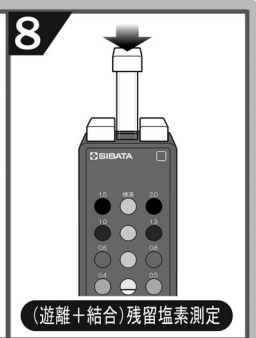
ご注意: 時間が経過すると発色が濃くなります。可能な限り測定時間をお守りください。



結合残留塩素濃度の測定 (必要に応じて実施)

*ヨウ化カリウム (品目コード 080520-0058) を別途ご購入ください

手順1～6に続いて6の発色した液にヨウ化カリウムを付属の薬さじで1杯 (0.1～0.5g) 加え、キャップを取り付けて混和し、約2分間静置します。



再度、比色板と比較し、6と同様に数値を求めます。この値が総残留塩素濃度となります。この値から6の遊離残留塩素濃度を引いた値が結合残留塩素濃度となります。(下記枠内を参照)

$$\text{結合残留塩素濃度 (mg/L)} = \text{総残留塩素濃度}^{*1} - \text{遊離残留塩素濃度}^{*2}$$

(* 1…手順8で2分間静置後に測定した値 * 2…手順6で約5秒後に測定した値)

仕様

測定法	D P D (N,N-ジエチルパラフェニレンジアミン) 法	
比色板	0.05 0.1 0.2 0.3 0.4 0.5 0.6 0.8 1.0 1.3 1.5 2.0 mg/L (12種類)	
構成	測定器本体 (ビニールケース付) 1式	
	角形試験管 (シリコンキャップ付) 3本	
	試薬なし	D P D法粉体試薬 (080540-501) 1箱
寸法	本体 : 67 (W) × 37 (D) × 156 (H) mm ビニールケース : 97 (W) × 50 (D) × 170 (H) mm	
質量	約 0.3kg (ビニールケース含む)	約 0.5kg (ビニールケース含む)
品目コード	080540-520	080540-521

別売品・消耗品・スペアパーツ

品目コード	品名	入数
080520-0058	ヨウ化カリウム 葉さじ付 (20g : 約 50 回分)	1 コ
080540-0210A	角形試験管 シリコンキャップ付	3 本
080540-0220A	シリコンキャップ (角形試験管用)	5 コ
080540-023	ビニールケース	1 コ
080540-501	D P D法 粉体試薬	100 コ
080540-503	D P D法 粉体試薬 徳用	500 コ
080540-522	残留塩素測定器 D P D法 比色板	1 枚

注意事項

- 当社の残留塩素測定器には、当社の DPD 法粉体試薬をご使用ください。
- ご使用前に、DPD 法粉体試薬の取扱説明書をご一読ください。
- DPD 法粉体試薬、ヨウ化カリウムは医薬品ではありませんので、絶対に服用しないでください。
- 粉体試薬は小児の手の届かないところに保管してください。
- 粉体試薬は直接手で触れないでください。誤って触れた場合はすみやかに流水で洗い流してください。
- 粉体試薬は光や湿度の高い場所に保管すると、変色する恐れがあります。できるだけ冷暗所に保管してください。
- 発色した検液の比色は、明るい場所でおこなってください。暗い場所では誤差が生じる場合があります。
- 塩素濃度 15 mg/L 以上を含む検水で測定すると、発色液が無色または淡赤紫色に変化するため、残留塩素が 0 あるいは低めに測定されます。
- 検水に含まれる共存物質が、測定に影響を及ぼすことがあります。その場合は、上水試験方法と比較し、測定値をご確認ください。(少しでも影響を受けるもの : Fe²⁺, Fe³⁺, NO₂)
- 測定終了後、発色液は、すみやかに多量の水とともに下水へ流し、角形試験管は、よく水洗いし、乾燥させてください。そのまま放置すると角形試験管が着色する原因となります。
(角形試験管は透明アクリルを使用しているため、洗浄の際は溶剤の使用は避けてください)
- 比色板や角形試験管にアルコール等有機溶剤が付着するとプリントが落ちたり、変形・破損することがあります。
- 比色板を放置すると紫外線等の影響で退色し、正常な測定ができなくなります。測定時以外はビニールケースに収納してください。

 **柴田科学株式会社**

カスタマーサポートセンター (製品の技術的サポート専用)
0120-228-766 FAX 048-933-1590

<https://www.sibata.co.jp>